

## 平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

伝統に培われた実績とアカデミックな校風を背景に文武両道・授業第一主義を貫き、次代のリーダーの育成をめざす。

- 1 高い志とチャレンジ精神で臨み、進路目標を達成する力を育む。
- 2 知・心（徳）・体にバランスの取れた豊かな人間性を育む。
- 3 広い視野と豊かな知識を持ち、次代のグローバルリーダーとしての資質を育む。

## 2 中期的目標

## 1 高い学力の育成

## (1) 授業の充実

生徒による授業評価と保護者による授業公開のアンケート結果を十分に活用するとともに、他校とも連携した教員相互の授業見学を実施して、授業力を向上させる。さらに ICT を活用した授業の実施及び授業公開により大阪府全体へ波及させる。

※生徒のアンケートにおける全体の満足度を平成 26 年度 85%以上、平成 28 年度には 95%以上に。保護者による授業公開アンケートにおける肯定的意見を 100%に。生徒のアンケートにおける「ICT を活用している」という評価を平成 26 年度 90%以上、平成 28 年度には 95%以上に。 (平成 25 年度授業の満足度 78.9%、授業公開 99%、ICT 活用の評価 85%)

## (2) 自主的な学習とバランスの取れた学習の定着

生徒が自主的なバランスの良い学習をしっかりと行えるよう、適切な指示・アドバイスを行い、環境整備も実施する。

※生徒の平日の自主的な学習の時間が 2 時間以上の生徒が平成 26 年度 70%以上、平成 28 年度には 85%以上に。また、3 時間以上の生徒が平成 26 年度 50%以上、平成 28 年度には 65%以上に。 (平成 25 年度平日の自主的学習 2 時間以上 68.9%、3 時間以上 48.7%)

## (3) 個々の学習状況に応じた学習指導の実践

生徒が理解度や到達度に応じた学習ができるよう、土曜講座や高大連携を一層充実させる。

※土曜講座に対する満足度を平成 26 年度は 70%以上、平成 28 年度には 90%以上に。高大連携への満足度を平成 26 年度以降 100%にする。 (平成 25 年度土曜講座 41%、高大連携 100%)

## 2 豊かな人間性の育成

## (1) 学校行事や部活動を通じた人間性の育成

学校行事や部活動を通して思い遣りや自主性などを育む。

※学校行事に対する生徒の満足度が平成 26 年度以降 90%以上を維持する。 (平成 25 年度 90%)

## (2) 自己発見・自己実現に向けたキャリア教育の充実

「職業ガイダンス」や「学部・学科ガイダンス」、さらには「知的世界への冒険」など、卒業生の支援のもとキャリア教育を充実させる。

※「職業ガイダンス」の満足度は平成 26 年度以降 95%以上に。 (平成 25 年度 94%)

「学部・学科ガイダンス」の満足度は平成 26 年度以降 90%以上を維持する。 (平成 25 年度 88%)

「知的世界への冒険」の満足度は平成 26 年度 85%以上に、平成 28 年度には 90%以上に。 (平成 25 年度 84%)

第一希望現役実現率を平成 26 年度以降 5 割以上を維持し、平成 28 年度には 6 割にする。 (新規)

## (3) 教育相談活動の充実

生徒や保護者に対するきめ細かな教育相談ができるよう、情報の共有や体制づくり及び環境整備を行う。

※達成度を平成 26 年度には 80%以上に、平成 28 年度には 90%以上に。 (平成 25 年度 71%)

## 3 次代のグローバルリーダーとしての資質の育成

## (1) 議論する力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力の育成

授業を中心とする様々な学習活動の中で、自分の考えをまとめ表現できる力、相手の主張を理解し自分の意見を交えしっかりと議論ができる力を育成する。

※生徒アンケートにおける肯定的評価が平成 26 年度 70%以上に、平成 28 年度には 80%以上に。 (平成 25 年度 60%)

## (2) GLHS の取組みを発展させ、新たに SGH に取り組む

ハワイ大学をはじめとする海外の大学や国際機関、高校等と連携し、国際的な視点で大学の研究の最先端に触れる。また、グローバルな社会課題を多角的に学び、積極的にその解決策を提言できる生徒を育成する。

※国際的な社会課題への関心度を、平成 26 年度は 60%以上に、平成 28 年度には 80%以上に。 (平成 25 年度 50%)

## 4 教職員の学校運営に係る体制づくり

## (1) 情報や課題を共有し、迅速に対応できる体制づくりを行う。

## (2) 学校運営の中心となる人材を育成する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 12 月・1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校へ行くのが楽しい (肯定 89%)</li> <li>・授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がよくある (肯定 82%)</li> <li>・人権の大切さについて学ぶ機会が多い (肯定 77%)</li> </ul> <p>○保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は教育活動 (授業・行事) を見学する機会を提供している (肯定 93%)</li> <li>・子どもは学校において充実した日常生活をおくっている (肯定 88%)</li> </ul> <p>○教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が学級担任以外の教員やカウンセラー等とも相談できる体制が整備されている (肯定 85%)</li> <li>・重大な事故や事件、災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう、役割分担が明確化されている (肯定 76%)</li> </ul> <p>【全体】</p> <p>生徒・教職員ともに、災害時等の危機対応意識が高まり、具体的な取組みが進んだ。</p>	<p>第 1 回 (6/26)</p> <p>○平成 26 年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度新たに文部科学省より指定された SGH の取組みを期待する。</li> <li>・文理学科と普通科の現状について分析を行い学校としての取組みの在り方について検討されたい。</li> </ul> <p>○進路指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後の進路追跡調査を大学と連携しての取組みを検討されたい。</li> </ul> <p>第 2 回 (11/13)</p> <p>○SGH の取組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常に意欲的な取組みを行っていて評価したい。</li> <li>・盛りだくさんの取組みであるので、生徒の疲労度にも留意されたい。</li> </ul> <p>○生徒指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の現状を分析し、これまでの北野らしさの継承とその限界について検討されたい。</li> </ul> <p>第 3 回 (3/4)</p> <p>○平成 26 年度学校評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体として目標を達成していることを評価する。</li> <li>・地域貢献が進んでいることを高く評価する。</li> <li>・今後の急激な大学入試改革には、健全な対応を望む。</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 高い学力の育成	<p>(1) 個々の教員の授業力の向上と教員の連携による授業の充実</p> <p>(2) 生徒の自主的な学習とバランスの取れた学習の定着</p> <p>(3) 生徒の到達度の正確な把握と個々の学習状況に応じた学習指導の実践</p>	<p>ア 校内での授業公開週間を年に2回実施する。また、他校と連携して、教員経験年数の少ない教員を対象とした授業見学会を含む授業力向上研修協議会を実施する。</p> <p>イ 教員相互の授業見学を全員で行い、授業見学後の反省記録用紙を作成して供覧できる体制を作り、さらなる授業改善を行う。</p> <p>ウ 電子黒板など ICT を活用した授業を充実させ、府内外の高校に授業公開することにより、府内外の学校が電子黒板の導入を決定できるよう支援する。</p> <p>エ 授業における自主的学習への適切な指示・アドバイスと、教科バランスのとれた学習についてのアドバイスを日常的に行うだけでなく、自主学習意欲を高める</p> <p>オ 土曜講座を実施するほか、「TOEFL 講座」「学内留学」を実施して生徒の学習意欲を高める。</p> <p>カ 校内の学力テストや模擬試験、校外の模擬試験などを活用し、分析会を実施して生徒の学力の伸びを正確に把握する。</p> <p>キ 海外の高大連携先を開拓して、生徒の学習の国際化に対応する。</p>	<p>ア・イ 生徒のアンケートにおける全体の満足度 85%以上。(平成 25 年度 78.9%) 保護者による授業公開アンケートにおける肯定的意見 100%。 (平成 25 年度 99%)</p> <p>ウ 生徒アンケートにおける「ICT を活用している」という評価が 90%以上。(平成 25 年度 85%)</p> <p>エ 生徒の平日の自主的学習の時間が 2 時間以上 70%以上、3 時間以上 50%以上。 (平成 25 年度平日の自主的学習 2 時間以上 68.9%、3 時間以上 48.7%)</p> <p>オ 生徒アンケートにおける満足度 70%以上。(平成 25 年度 41%)</p> <p>カ 学校教育自己診断における達成度 80%以上。(平成 25 年度 76%)</p> <p>キ 高大連携の満足度 100%以上。(平成 25 年度 100%)</p>	<p>ア・イ 校内での授業公開週間を 2 回実施し、他校との連携による授業見学会及び授業力向上研修協議会を 4 回実施した。生徒のアンケートにおける授業満足度は 83%となり前年を上回った。保護者の授業公開アンケートにおける肯定的意見は 99%で前年と同じであった。相互授業見学が容易にできるようにするための時間的余裕の捻出が課題である。(○)</p> <p>ウ 生徒アンケートにおける「ICT を活用している」という評価は 90%であり、目標を達成した。更なる環境整備に取り組みたい。(○)</p> <p>エ 生徒の平日の自主的学習の時間が 2 時間以上 77%、3 時間以上 49.5%であった。生徒の学習意欲が高まっているので、今後ともさらなる充実をめざしていきたい。(○)</p> <p>オ 「土曜講座」「TOEFL 講座」「学内留学」を実施した。生徒アンケートによる満足度は 66%であり目標にはわずかに届かなかったが、昨年度を 25%も上回った。(◎)</p> <p>カ 校内学力テスト、模擬試験、校外模擬試験などを実施するごとに、分析会を実施して生徒の学力の伸びを把握した。しかし、放課後を活用したため、さまざまな取組みと重なり、参加が難しかったようで、達成度は 65%であった。実施時間の設定の工夫が課題である。(△)</p> <p>キ ハワイ大学との連携を進めた。高大連携の生徒の満足度は 100%であった。来年度は東南アジアの大学との連携も進めていきたい。(○)、</p>
2 豊かな人間性の育成	<p>(1) 学校行事や部活動のさらなる充実</p> <p>(2) 自己発見・自己実現に向けたキャリア教育の充実</p> <p>(3) 異文化理解教育の充実</p> <p>(4) 教育相談活動の充実</p> <p>(5) 校内美化・清掃活動の充実</p>	<p>ア 安全で安心な学校行事や部活動実施のため、活動内容の点検を行い、問題点を洗い出して改善する。</p> <p>イ 「職業ガイダンス」や「学部・学科ガイダンス」、さらには「知的世界への冒険」も含め、内容を一層充実させる。</p> <p>ウ 大学や研究所等への留学生を活用するため、あらたな連携機関を開拓する。</p> <p>エ 教育相談関係のケース会議や支援教育校内委員会を実施するとともに、SC の参加を求める。また子ども家庭センター、府教育センター教育相談室等と連携するなど、外部専門化を積極的に活用する。</p> <p>オ 生徒の作品展示場所やポスター掲示場所の整備を行う。また、定期的な清掃点検を行う。</p>	<p>ア 学校行事に対する生徒の満足度 90%以上。(平成 25 年度 90%)</p> <p>イ・ウ 「職業ガイダンス」の満足度 95%以上。(平成 25 年度 94%) 「学部・学科ガイダンス」の満足度 90%以上。(平成 25 年度 88%) 「知的世界への冒険」の満足度 90%以上。(平成 25 年度 84%)</p> <p>エ 学校教育自己診断における達成度 80%。(平成 25 年度 71%)</p> <p>オ 学校教育自己診断における達成度 80%。(平成 25 年度 75%)</p>	<p>ア 学校行事に対する生徒の満足度は 88%であった。更なる改善を進めていきたい。(○)</p> <p>イ・ウ 「職業ガイダンス」の満足度は 94%、「学部・学科ガイダンス」の満足度は 90%、「知的世界への冒険」の満足度は 88%であった。例年通りの高い数値であるが、より一層の工夫をしていきたい。(○)</p> <p>エ 教育相談関係のケース会議や支援教育委員会の実施等に積極的に取り組んだ結果、学校教育自己診断における達成度が 85%となり、成果が出たと考える。引き続き積極的に取り組んでいきたい。(◎)</p> <p>オ 学校教育自己診断における達成度は 75%であり昨年度と同じであった。PTA との連携を一層強めていきたい。(○)</p>
3 次代のリーダーとしての資質の育成	<p>(1) 議論する力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力の育成</p> <p>(2) 国際的な課題への探求心の育成</p>	<p>ア 「課題研究」「情報」「学内留学」「海外語学研修」等を中心にディベートやプレゼンテーションの学習と実践を行う。また、あらゆる学習活動の中で、自分の考えをまとめ、発表する取組みを行う。</p> <p>イ 海外の大学や国際機関、高校との連携により社会課題等について研究し、成果を発表する。</p>	<p>ア 学校教育自己診断における「自分の考えをまとめたり、発表する機会がよくある」という評価が 70%以上。 (平成 25 年度 60%)</p> <p>イ アンケートにおける社会課題への関心度が 60%以上。(新規)</p>	<p>ア 学校教育自己診断における「自分の考えをまとめたり、発表する機会がよくある」という評価が 72%であった。昨年と比べて 12%上がっており、SGH の取組みなどの成果が出たと考える。引き続き積極的に取り組んでいきたい。(◎)</p> <p>イ アンケートにおける社会課題への関心度は 57%であった。SGH の取組みの充実を図りながら、一層の向上をめざしたい。(○)</p>
4 教職員の学校運営に係る体制づくり	<p>(1) 情報や課題を共有し、迅速に対応できる体制づくり</p>	<p>ア ICT を活用して、情報や課題の共有や迅速な対応を行う。</p> <p>イ 教職員の危機管理意識を高めるための校内研修を実施する。</p> <p>ウ HP を充実させるとともに、保護者メールや緊急ブログ等の活用により、保護者への情報発信を確実にを行う。</p>	<p>ア・イ 学校教育自己診断における肯定的評価 70%以上。(平成 25 年度 50%)</p> <p>ウ 学校教育自己診断における達成 80%以上。(平成 25 年度 67%)</p>	<p>ア・イ 学校教育自己診断における肯定的評価はア 64%、イ 76%であった。平均して昨年度と比べて 20%向上した。引き続き積極的に取り組んでいきたい。(◎)</p> <p>ウ 学校教育自己診断における達成度は 66%であり昨年とほぼ同じであった。引き続き充実に努めたい。(○)</p>